



(発行所)
 青山同窓会
 〒951 新潟市関屋下川原町2-635
 新潟県立新潟高等学校内
 TEL 025-266-5268
 FAX 025-266-5268
 (編集、発行人)
 上村光司
 (印刷所)
 オリオン印刷(株)
 〒950 新潟市南出来島1-19-1
 TEL 025-283-2151
 FAX 025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長

37回 鈴木 正二



暑い夏、総会の季節がやってきました。会員の皆様には、今年もお元気で、ますます各界にご活躍のこととお喜び申し上げます。

既にご承知の通り、今年は総会を母校百周年記念式典並びに祝賀会(10月17日)と合同で行うこととなり、ただ今その最終準備に入っております。

おりますが、同窓各位もお誘い併せて、ぜひたくさんご参集いただきたいものとお待ちしております。

百年の歴史を共に祝いながら、楽しい時を過ごしましょう。

この日の為に数年前からいろいろご苦労いただいた幹事諸兄はじめ関係各位に感謝とお礼を申し上げます。

皆さんの力を合わせて、今後とも同窓会がますます発展することを期待しています。

東京青山同窓会 新人歓迎会

さる五月十五日午後六時より、恒例の「新人歓迎会」が東洋経済ビル9階ホールで盛大に開催されました。当時は生憎の空模様でしたが、百名程の新人が集まり、また、同窓会からは枡倉浩先生、母校からは新人たちの旧担任を代表して皆川、赤野両先生も駆け

つけ付けて下さり、会場は溢れんばかりの大盛況でした。渡辺毅之氏(72回卒)の進行により、東京青山同窓会会長齋藤伸雄氏の挨拶のあと、読売新聞社編集委員牛木素吉郎氏(59回卒)が「スポーツと日本の環境」と題して講演されました。若者は進取の精神

を持ち大いに自己をアピールせよ、という氏の主張に新人たちは感銘深く聞き入っていました。

続く歓迎会では、松田巳和さん(97回卒)が大学生活について親身なアドバイス、また、名誉会長齋藤英四郎氏(36回卒)は人生についての含蓄あるアドバイスを、それぞれ新人たちに贈りました。

校歌と応援歌の大合唱が続く会場には心尽くしの御馳走が並び、日頃食糧事情の良く



ない(?)新人たちは見事な健啖ぶりを発揮していました。先輩会員の暖かい歓迎に新人たちは「青山」の伝統を実感し、同窓会員としての誇りと

自覚を新たにしていました。最後に新人を代表して丸山奈津子さんがお礼の言葉を述べ、全員で応援歌を声高らかに歌って閉会いたしました。

百周年にむかって(六)

実行委員会総務

59回 関根彰圓

愈々母校創立百周年も目前に迫りました。各位の多額のご寄附を頂戴いたしまして準備を進めてまいりましたが、

17時30分～19時 立食パーティー形式

去る6月24日の実行委員会、事業・行事の細目がほぼ整いました。これまでの大筋に変わりはありませんが、重ねてお知らせ致します。

出席については予約方式で既に申込みをいただきました。なお祝賀会兼懇親会の会費を納入された方に受領書兼チケット用の葉書を、事務の都合上9月初旬にお送りいたしますのでご了承くださいるようお願い申し上げます。

I 記念行事
 ①式典・講演会
 於 新潟市体育館
 平成4年10月17日(土)
 式典 13時30分～14時20分
 講演 14時30分～15時30分
 講師 齋藤英四郎 氏
 (経団連名誉会長 36回)
 永井 梓 氏
 (読売新聞論説委員 62回)

II 記念事業
 ①クラブ活動基金の設立

②祝賀会兼総会懇親会
 於 ホテル新潟 3F飛翔
 平成4年10月17日(土)

③音楽会
 於 県民会館 生徒対象
 平成4年10月6日(火)
 午後

④N響団友オーケストラ
 曲目・指揮者は未定

⑤N響団友オーケストラ
 曲目・指揮者は未定

⑥N響団友オーケストラ
 曲目・指揮者は未定

⑦N響団友オーケストラ
 曲目・指揮者は未定

1000万円を基金としてこの利子をクラブ活動の重点的奨励金に充て、運営委員会を設けて適切に運用します。なおお基金は今後の寄附金等で逐次増額します。

②施設・設備の拡充
ピアノ及び保管ボックスの購入その他。

③「青山百年史」編纂
通史篇・史料篇計925頁
題字 渡辺秀英氏(旧職員)
頒布価格 3000円

申込みは既にいたしております。代金は配本時同封の振替用紙でご納入下さい。

④青山同窓会名簿発行
第一印刷に委託
FAX283-3785
価格 5000円

購入希望数 6156冊
6月現在

⑤「青陵」百周年特集号
平成5年2月下旬発刊
価格 約1000円 900頁

平成5年度の総会で頒布いたします。

⑥記念品
(ア)テレホンカード
(イ)公募により金山常吉氏(60回)のデザインで作製いたした

ました。式典終了後、礼状・決算書と友に募金された方にお送り致します。

式典・祝賀会にご出席の方に差上げます。

(ウ)記念Tシャツ(シンボルマーク入り)
価格 1500円

祝賀会場で業者委託販売。

(エ)校歌・応援歌テープ
在校生・職員有志による自作のテープ。実費販売いたしません。

III 募金

目標額 3800万円
達成額 4100万円
(平成4年6月末日現在)

各期幹事並びに同窓会員各位の温かいご協力の賜物と深く感謝いたしております。

なお、クラブ活動基金につきましては「多々益升」でございますので今後とも御志を頂戴したいと願っております。

IV 予算
式典関係・記念品関係が当初の予定より大巾に増額しました。6月末現在の4100万円で補正予算を組みました。かなり苦しい現状ですが、以上百周年関係の概要でございます。

ございます。10月17日にはお会いして、母校の百歳を大いに祝福したいと存じております。同窓各位の母校にお寄せいた

副会長上村さん

新潟日報の社長に就任



青山同窓会の副会長上村光司さん(50回)が平成4年1月27日より、新潟日報社の代表取締役社長に就任されました。おめでとうございます。

だくご温情に感謝し、益々のご健勝をお祈り申し上げます。てお知らせと致します。

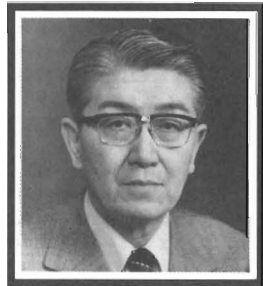
以上

同窓会の役員会の後で、おめでとございます、と申し上げましたら、「いやあーいそがしなっさ」と例の調子で話しておられましたが、いろいろ公職を始め、審議会委員やら何やらと毎日大変お忙しいそうです。酒席も多くなりそうです。お体に気をつけられまして、一層活躍されま

ことをお祈りしたいと思えます。おめでとございます。

副会長

等々力英男氏ご逝去



さる5月6日、青山同窓会副会長 等々力英男さんが逝去されました。

既に皆様ご承知の通り、トヨタグループの総帥としてお忙しい中、新潟商工会議所会頭、新潟証券取引所理事長、新潟県教育委員など、を歴任され、県、市経済界のリーダー、

まとめ役を長年にわたって勤められました。そんなご多忙の中で、同窓会においては、新潟中学、旧制高校、そして京都大学一年先輩の鈴木正二会長の元で、副会長としてよく助けられました。同窓会今日の隆盛の基を築かれました。

6月30日にあの広い産業振興センターで行われたトヨタへ一緒にキャンプに行ったり、まむし蛇の名所とは知らず、草やぶの中を一キロも歩いてようやく東京の知人宅にたどりついて泊めてもらったが、その夜中に便所へ行った帰りに目の疲れのせい、寝ぼけて家の中で迷い子になり、うろろろしていた等々力さんの顔と、トヨタ会長の顔が重なって、遠い昔が懐かしく思い出される。

正直で曲がったことが嫌い、それに我がままのし放題の人生は、はたから見れば誠にうらやましい思いです。安らかに眠って下さい。

追悼

等々力英男さん

38回 藤田義一郎

去る五月六日、新潟トヨタ自動車等の等々力英男さんが亡くなられた。われわれの年齢になれば、あの世行きのバスの順番を並んで待っているよりうなもんだが、若いころの思い出に浮かぶ人がいなくなるということは、本当に寂しい限りだ。

新大学長に 55回 武藤氏就任



このたび、新潟大学学長に 55回武藤輝一氏が就任されました。おめでとござります。

ご紹介を同期の早福さんにおねがいしましたところ、ご本人より、自己紹介を兼ね、ご寄稿を頂きました。

おめでとどう武藤さん

「弁明の言」

55回 早福 卓

同窓会報の編集子から同期五十五回の武藤氏が新大学長に当選し二月一日に就任されましたので是非紹介の一文を誌すよう依頼がありました。

機会を得て取材の話を切り出したら武藤君の方から「面倒かけるのも何だから良かったら、自己紹介」として私が書く」の申し出があり甘える事にしました。彼は秀才ぶらず、全く気さくな性格の持ち主で同期生から信望の集まる人物でした。長じても周囲の

氏が就任しました。附属小学校、旧制新潟中学校と一年違ひの同窓同志です。阿吽の呼吸で素晴らしい業績を樹立する事でしょう。

自己紹介

55回 武藤輝一

私は昭和22年3月新潟中学校を卒業し、旧制新潟高等学校理科へ進み、昭和29年3月旧制新潟医科大学を卒業しました。結局、旧制度の小中学校にはじまり、旧制度の最後の大学卒業生となった次第です。もっとも私の次の学年からは新潟大学医学部の学生となり、新旧両制度の学生が混在していたわけで、第二次世界大戦後しばらくぶりに再開した全国学生柔道優勝大会には新潟大学のメンバーの一人として参加しました。

1年間のインターンをおえ昭和30年4月からは新潟大学医学部外科学教室に入局、外科医としての一歩がはじまりました。大学院医学研究科第一外科(博士課程)を修了したあと助手となり、講師となっておりましたときに恩師堺哲郎先生が逝去され、昭和45年

かねばなりません。かつて米国では大学の数がふえすぎ、半分以上に減少した時代があります。それほどのことはないにしても21世紀初頭には大学生の数は13万人減少するであろうという予想もあります。

地方国立大学の一つである新潟大学の将来を考え、いかに魅力ある大学として学生諸君をひきつける力を持つ大学とすることができるか大きな課題であります。大変な時に学長職をお引受けしたという気がしております。

県立新潟高等学校も創立百周年を迎えることになりました。長い歴史に甘んずることなく同窓の皆さんが国内に於ても国外に於ても、より一層ご活躍下さいますよう祈念致しております。

在京新申三十五会 『春の集い』

35回 尾崎三夫



去る五月八日(金)に、新宿ヒルトンホテルの『王朝』(中華料理店)で開催。今回は、山名君が五月十七日から十日間の予定で、中近東(主としてイスラエル)(キリスト聖蹟のツアー)に参加する為、同君の壮行会を兼ねて楽しい午餐会と相成った。出席者は、入沢健三、岡 四四亥、近藤百之、籠島秀雄、笹川正男、丸山求蔵、山名栄一の8名。

飯塚実氏(59回) 母校で講演

新緑が美しい五月二十八日、若き日にレスリングで大活躍した本校出身の飯塚実氏が母校で後輩の前で講演され、氏のおふれんばかりのレスリングに対する愛情やスポーツというものを通して肉体を鍛練する中で健全な精神が育まれると説かれ、ひとつの道を極めた氏の講演に在校の後輩たちも真剣に耳を傾けていました。

飯塚氏は昭和二十六年三月新潟高校を卒業後、明治大学に進まれ、全日本学生選手権バンナム級では敵なしの三連勝、また全日本選手権二連勝、アジア大会優勝など輝やかしい戦歴の持ち主でおられます。社会人になられても全日本選手権優勝、世界選手権三位とその勢いは続きました。メルボルンオリンピックでは期待がかけられましたが、足首捻挫のため五位に甘んじました。が氏の栄光の記録はさながら

ある八田一朗氏がスポーツ、特に格闘技では目が勝負だとして、ライオンと選手がにらめっこする練習をさせたり、闘争心を養うためにハブとマングースの対決を見せたりする興味深いエピソードも紹介されました。そして最後に、「学生時代にスポーツの力を借りて肉体を培って欲しい。皆さんのような若い内にスポーツをやって体を鍛えて欲しい。スポーツが血となり肉となつて皆さんの人生の土台になるだろうから。」と力説され、生徒達も心に刻みながら拝聴していました。

昭和七年三月卒の我々は四年修業卒を併せて二百十名であるからこの六十年間でそのめっこする練習をさせたり、闘争心を養うためにハブとマングースの対決を見せたりする興味深いエピソードも紹介されました。そして最後に、「学生時代にスポーツの力を借りて肉体を培って欲しい。皆さんのような若い内にスポーツをやって体を鍛えて欲しい。スポーツが血となり肉となつて皆さんの人生の土台になるだろうから。」と力説され、生徒達も心に刻みながら拝聴していました。

講演では、アマチュアレスリングの歴史を紹介する中で日本のレスリング界の先駆者風間栄一氏や八田一朗氏などの名前を挙げられました。風間氏の指導の下、新潟県がレスリング王国になったことや、ナショナルチームのコーチで

卒業六十周年記念祭

青山三九会

平成四年五月七日(木)

この日こそ三年前から五万円等の積立をして待望していたこの積立をして待望していた我等の祝日である。積金の内一万円は母校百周年への寄附金である。寄附金は昨年八月に母校事務局に渡し済みで残額四万円也で物故者慰霊祭と懇親会を計画、慰霊祭は長崎山真宗寺で、懇親会は行形亭で、すべての準備はOK。



次いで午後四時から行形亭での開宴となる。集まる者三十名、折角積金していたのに病患等で欠席者十五名も出たのは誠に残念。やはり八十才に近づいた我々の年令もあるのか。広々と用意された山の上の大広間に庭の緑を存分にに入れて応援の古町姐さんたちの踊りがつく。衣装を変えた相川音頭はさすが、これだけは新潟以外で見られない。

- 阿部助哉 猪初男 宮村定男
野沢正一 渡辺俊男 涌井
十一郎 高橋新一 石高信司
本田正三 出塚浩一 高橋
茂登吉 小武内尚三 市島智
三郎 伏木弘 岡崎清彦 大
塚信一 佐藤裕雄 小林芳輔
中村健 池田藤三 佐藤英
雄 佐藤平八 田中正一 北
川立夫 五十嵐健治 川崎孝
治
地元幹事 上原虎雄、皆川竹
次郎、皆川登良夫、福山健
(福山記)

青山ゴルフ会

青山同窓会のゴルフ愛好家が集まって年2回楽しんでいるゴルフ会は、26名の参加で、春の大会を6月18日(木曜)イーストヒルゴルフクラブにおいて行いました。

優勝は谷 久(64回)さん、準優勝は小林 亨(60回)さん。シニアレディス優勝は大森ゆかり(69回)さんでした。

この日のゴルフ場は大変風が強くそれぞれ苦労した様です。そこで秋の大会をもう一度ここで、ということになり、懇親会で日を決めました。9月3日(木曜)イーストヒルゴルフクラブ参加費 5,000円 個人賞 ダブルペリア 団体賞 各期対抗

佐藤 隆 顕彰碑

建立除幕式

52回 筑波電子



元農林水産大臣 従三位勲一等故佐藤 隆代議士の顕彰碑が建立され、さる4月14日に建立することとなり、頭に、生まれ故郷の亀田町で支援団体であった一隆会の関係者などが集い、神式により除幕式が厳かに執行されました。佐藤さんが逝去されたのは、平成3年4月17日ですが、早くも一周忌を迎えることになりました。

昨年、葬儀の直後、亀田町の一隆会の幹部から顕彰碑建立の二議が提起され、役員全員一致して決定し、一周忌を目度として建立することとなり、顕彰碑建立委員会及び実行委員会が設置され、企画と募金運動に入ったのであります。一隆会は既に実質解散しましたが、佐藤さんの人徳を慕う人々にとっては、あまりにも突然な逝去が信じ難く、生前の庶民的な容顔に接する術を失った心の空洞を埋める拠所を求める素朴な念願が凝集した形

として実現したものでありました。

当日は、午前11時から亀田町荻曾根地内、町道南線に面した梅林の一角に建立された碑の前に、多数の町民の方々や関係者が参集され、やがてご遺族の手によって除幕されました。

碑には、元内閣総理大臣福田起夫先生ご揮毫になる「佐藤 隆顕彰碑」の碑文が刻され、裏面には生前の業績と建立の由来が記刻されてありますので、同窓諸兄も一度機会を求め参拝してください。

除幕の瞬間一天俄にかき曇り、大粒な霰が降って来たが、すぐ止み、再び陽光が洩れてきたのは実に不思議な現象でした。

式後亀田町町民会館で斎行された「直会」の席上、亀田町長阿部学雄氏は、この天象は『天から佐藤 隆先生が「皆さんありがとう、今後わたしに替わって社会のため一生懸命努めてくれよ!」との啓示であると確信しております。』といわれ、さらに町長さんは、旧友(亀田小学校同級生)として長い交際の中で

最も信頼した人を失い残念至極でならないと、涙で声を詰まらせておられたことは極めて感動的でありました。

古泉建立委員長さん、竹内実行委員長さんの報告では、建立費の浄財募金は亀田町に限定し、町民の方々や関係企業から一千五万円の寄付で賄ったとのことでしたが、郷党愛の強さには感銘させられました。

私達52回生の有志も心分の

協力させて頂きましたので、当日特にご招待に預り、成田昭一、小沢興栄、武笠昭一と小生の四人で参列致しました。

なお末筆ながら佐藤 隆末亡人耀子様から同窓の皆さまに対し感謝の念と今後変わらぬご交誼の程を託されて参りましたので、この紙上を借りてお伝え申し上げます。

(平成4年4月20日記)

東京青山第61回生 明治記念館に集う

平成四年六月六日(土)、東京青山第六十一回生同期会を明治記念館(東京信濃町)にて開催した。

毎年六月第一土曜日に開催を恒例としているもので、今年にはD組の幹事当番である。卒業時D組をご担当いただいた松田一郎先生(生物)をお招きして、総勢約六十名が集まった。

司会進行は慣れた捌きの西澤君が担当。会合の進め方も

新しいやり方を導入、先ずは四十年前の熱き血に燃える? 青春時代に気持ちを戻すため、杉山君の準備したテープの伴奏付きで、我々在学中の昭和二十七年開校六十周年を記念して制定された校歌『百里流れて...』を斉唱した。

次いでお元気な松田先生より恩師の方々のご消息、先生のお言葉を拝聴し、更に同期の長谷川新潟市長より新生ロシ

アを含めた日本海経済圏構想の中核になりつつある故郷新潟市の最近の動きを伺い、乾杯の音頭は、シンガポールから馳せ参じてくれた湯川君にお願いして、早速懇親に入りました。

既に例年参加の馴染みの顔も多々あるが、卒業以来三十九年振りの参加もあって賑やかな会合となり、四十年程をタイムスリップして昔を思い出しつつ、楽しい懇談が繰り広げられ、あっと言う間の三時間であった。

途中、新潟から例年参加の江口君から母校の創立百周年記念事業の進捗状況等を聞き、故郷の発展振りに思いを馳せた。

中締めは大相撲のメッカ、両国国技館を管轄する本所消防署署長横村君の一本締めで、来年の再会を約して散会した。

来年は、卒業満四十年の記念すべき年という事で新潟と合同で新潟での開催を決めた。ふるさとに今年にも増して元気な多くの同期生が集まってもらいたいものだ。楽しみにしている。

(D組幹事 鈴木正三)

椿、はまなしの花の色紙は何処に

60回 小林智明

「再拜、収穫の秋御多忙と拝察、旧母校再建期成会より色紙四枚の寄稿月末までにと催促の処、病状未だ執筆寛束なし、就ては先日御手元に差上げた『はまなしの花』その他花卉類の色紙二三枚残存して居りましたら此際至急御返しを願えませんか、後四五日したら改めて執筆も可能のこと故、その節償ひを致します。よろしく御含みを乞ふ。」



これは、昭和三十年九月十四日、屠龍山人笠原輒(十回生)が亡くなる二ヶ月ほど前に、新潟市北山(當時は中蒲原郡大江山村)の片桐民治宛に出したハガキである。

この年の夏より仮寓先の沼垂大民館で病臥するようになった笠原画伯は、病床より前年焼けた母校の復旧に思いを寄せていたが、復興期成会より依頼の色紙が仲々描けず、思い余った末に以前描いた色紙を知友から返して貰い、後日

その埋め合せをするという文面である。手紙を貰った片桐氏は早速色紙を届けてくれた。画伯はその礼状に

「先日は御手数煩はし深謝、折よく本田氏来館し、間瀬屋も来合せ三枚だけ本田氏に託送す。旧作の椿の写生がむしろ評判よし。明日の出動日も医師の勧告もあり欠勤して静養致すべく、歩行殊に階段の登降が未だ寛束ない。秋熟の際御多忙と拝察、皆様によるしく、二十日夕。」

この二枚のハガキが、心許した友人片桐民治への最後の書簡となり、病状は更に悪化

して一ヶ月半後の十一月五日、新潟市の臨港病院で七十才の生涯を閉じた。本田氏は十九回生の本田喜作で、復興期成会の幹事であった。出勤日というのは、当時絵を教えていた津川高校講師の勤務であった。

一枚のハガキから思い出されるのは、昭和二十九年四月四日の母校焼失の火災である。それは青山百年史上の一大痛恨事であった訳だが、しかしその後の復興期成会の活動は目覚しく、学校は早期に復興された。その中に全国名士の色紙展示即売会があった。これは四十七回生の風間敷氏の企画で催されたもので、青山同窓会報第六号(昭和四十三年一月発行)に詳しい。

その「県立新潟高校復興資金獲得全国各界著名士色紙展目録」を見ると、安倍能成、天野貞佑、金森徳次郎、湯川秀樹、金田一京助、大谷壮一、呉清源、橋本宇太郎、大山康晴、升田幸三、柳原白蓮、吉川英治、深尾須磨子、高浜虚子、吉井勇、永井荷風、加藤芳郎、石橋湛山、小唄勝太郎、宇野重吉、古川緑波、高峰秀子、淡島千景、徳川夢声、石黒敬七、京マチ子、越路吹雪、白井義男、千代の山、栃綿、長谷川町子など約百人ほどの当時の名だたる全国著名士の名前が見られる。この方々がよくもわが新潟高校の復興のために、書や画を寄せて下されたものと感心すると同時に、このような企画を推進された風間先輩をはじめ四十七期の方々の努力に頭が下がるのである。更に会津八一(七回)笠原輒(十回)佐藤哲三郎(十四回)田中耕太郎(十五回)安藤文平(十六回)安宅帛雄(二十七回)富川潤一(三十四回)関屋俊彦(三十八回)などの同窓先輩の名と、当時の職員であった三浦文治、関口昌孝の両先生の名も見える。依頼状は三百人近い人に、印刷文は失礼と全部一枚一枚毛筆して送ったということだ。「私も毎日毎日書かされました。」という岩田はす枝さんから当時のことをお聞きしてお手許に大切にしているという展示即売会での一枚の色紙(別掲)をお見せしたい。

その中で、十回生の笠原輒画伯には前記の二枚のハガキ

によって、臨終近い裏話が秘められていたことがわかった。この展示即売会は画伯が亡くなった翌昭和三十一年四月に小林百貨店で催されたのであるが、初日の開会一時間後くらいには殆どの作品に赤札がはられたという。画伯が寄せた「椿」や「はまなしの花」の色紙も、どなたか愛好家になる。

買上げられたに違いないのだが、今は何処に在るやら行方がわからない。今秋十月には屠龍山人笠原輒画伯の遺作展が計画されており、また画集も発刊される運びとなっている。その時までは是非めぐり会いたいものと、ハガキを眺めながら念じているこの頃である。

平成三年度 青山同窓会会費納入者追加分

(1月より3月までに納入のもの)

納入先
 (郵便振替口座 新潟 5-4455 青山同窓会)
 (第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会)

- | | | |
|------|-----|----|
| 塚田大願 | 28回 | 雄 |
| 安石達 | 29回 | 夫 |
| 安石達 | 30回 | 宏直 |
| 安石達 | 31回 | 夫 |
| 安石達 | 32回 | 郎雄 |
| 安石達 | 33回 | 三利 |
| 安石達 | 34回 | |
| 安石達 | 35回 | |
| 安石達 | 36回 | |
| 安石達 | 37回 | |
| 安石達 | 38回 | |
| 安石達 | 39回 | |
| 安石達 | 40回 | |
| 安石達 | 41回 | |
| 安石達 | 42回 | |
| 安石達 | 43回 | |
| 安石達 | 44回 | |
| 安石達 | 45回 | |
| 安石達 | 46回 | |
| 安石達 | 47回 | |
| 安石達 | 48回 | |
| 安石達 | 49回 | |
| 安石達 | 50回 | |
| 安石達 | 51回 | |
| 安石達 | 52回 | |
| 安石達 | 53回 | |
| 安石達 | 54回 | |
| 安石達 | 55回 | |
| 安石達 | 56回 | |
| 安石達 | 57回 | |

- | | | |
|-------|-----|-----|
| 一夫衛登作 | 42回 | 隆次富 |
| 清雄二藏 | 43回 | 廣隆幸 |
| 裕男 | 44回 | 繁昌 |
| 介 | 45回 | 成一 |
| 成也 | 46回 | 橋原 |
| 康 | 47回 | 川 |
| 男猛 | 48回 | 坂田 |
| 吉郎 | 49回 | 沢間 |
| 正二 | 50回 | 野田 |
| 清 | 51回 | 井岩 |
| 清雄二藏 | 52回 | 倉黒 |
| 裕男 | 53回 | 北鈴 |
| 介 | 54回 | 山 |
| 成也 | 55回 | 高茅 |
| 康 | 56回 | 中 |
| 男猛 | 57回 | 大山 |
| 吉郎 | | 相江 |
| 正二 | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | 江 |
| | | 小串 |
| | | 篠高堤 |
| | | 倉黒 |
| | | 山渡 |
| | | 北鈴 |
| | | 山 |
| | | 高茅 |
| | | 中 |
| | | 大山 |
| | | 相江 |
| | | |

母校百周年に寄せて

46 回卒業柔道部(有志)が

特別寄付

昭和十三年十月、第八回中等学校柔道優勝大会で本校柔道部が団体戦で若松商業と死闘の末、悲願であった全国制覇を果たしました。

当時の柔道部の46回卒業生有志を代表して、東京学館新潟高校長高橋是成氏が母校創立百周年事業に役立てて欲しいとのことで多額のご寄付を瀧澤校長の元へ届けてくださいました。誠にありがとうございました。

当時柔道の試合は、優勢勝ちというものはなく、一本勝ちしないと引分けとなったそうです。決勝の対若松商業戦では、引分けの連続で二回も雌雄を決することが出来ず、とうとう三回目の戦いになりました。大将の川村竹一選手と副将の高橋是成選手がそれぞれ一本勝ちして、ついに二対〇で新潟中学が全国制覇を果たしたのでした。前々年度の大会では決勝で涙をのんだ

経緯があり、その上このたびの壮絶を極めた試合の後の栄冠であったので、喜びもひとしおであったろうと思えます。いま一度この偉業を讃えます。同時に、ご寄付いただいた有志の方々に深く感謝申

ますと同時に、ご寄付いただいた有志の方々に深く感謝申

それぞれの立場で

チャレンジを!

新潟県本庁初めての女性課長

玉木直子さんを訪ねて

上げます。

なお、高橋是成先生以外の有志の方々のお名前をご紹介しますが、皆さん病氣や戦争でお亡くなりになっておられます。ご冥福をお祈り申し上げます。

川村竹一、小野浩二、森賢二、丸山由正、後藤健、近藤隆、角南康彦、園辺徳三郎、田中真、星山道雄、皆川建夫、若月喜十郎(敬称略)

えっ?こんな女性的な人が...と新潟県女性児童課長・玉木直子氏と名刺交換をした人は思つかもしれない。終始明るい笑顔を絶やさず、ココロと女学生のような笑い声を発する直子さんと、「新潟県本庁初の女性課長」という



玉木直子さんは、昭和16・大学に進み、昭和39年上級職で新潟県に入庁。同期入庁の女性上級職は事務系で3人、

他の2人はすでに退職されたとのこと。当時大卒女性の門戸は今以上に狭く、新潟で開かれていた門戸は公務員か教職員くらいだった。

入庁後、さまざまな部署を経て役職登用されたのは14年目である。やはり男性公務員よりは役職登用は遅かったようだ。家事・子育てと公務の両立の難しさも味わいながら、そのような状況にいる者に、つまり女であるということを出張や残業面に気を遣ってくれる男性上司、男性同僚の優しさをNOと拒否できなかった自分を振り返るといふ。

彼女のキャリアも、「経済的自立が自分の精神的自立を助けると考えて働き続けてきた」という姿勢も、まさに現在の女性児童課長の役職にふさわしい。

自己のキャリア形成のために努力してきたこと、そしてこれからも努力していきたい点は、①基礎知識の習得、②調整能力の開発であるという。特にこれから管理職としてはさらに調整能力の開発が必要になってくる。そのためにはさまざまの分野のさまざまな

- 男 治哉吉夫 寿之世 郎之夫雄 一夫浩義 敬介也 司範
- 正 末正哲 徳康英 紀雅和達 栄通克和 敬哲 賢雅
- 川 58回 徳林川 59回 倉山宮 60回 川杉井崎 61回 崎山田辺 62回 崎崎辺 63回 玉島
- 皆 五植小早 河早山 石上向山 川丸山渡 石山渡 児寺

- 俊 晃吉勝市治彦 治夫郎美英博潔郎 一利 智穂郎 一
- 山 64回 正基 清幸元 隆啓成綾良 土 聰忠 瑞一 謙
- 山 石熊谷藤藤辺 65回 崎堀巻井田場川川 66回 間山 67回 部田上 69回 松
- 真 大小熊近佐田 大金笠須南早吉 風福 阿石井 若

- 治雄介衛 諒 義子 一昭 諒憲一己 正 一明 綾 夫 之
- 欣伴濱牧 71回 正和 弘正 秀義一 徳 耕英 83回 伸 治 信 名
- 沢水邊田 72回 山原 晴口 川橋村田 76回 徳 耕英 83回 伸 治 信 名
- 小清渡西 滝 内松 小樋 今高中藤 熊 岩寺寺 篠 長

種類の情報収集が欠かせない。若い時代は「調整」といって、も事務的調整でよかったが、今後は、庁内や民間の多くの人の力を借りての調整活動が中心になる。できるだけ人の顔を覚え、どこにどんな力を持っている人が居るかを知らなければならないので、それぞれの立場でチャレンジしていきたいと語り、会った人とはできるだけ打ち解けて話すように、今更以上に努力しているという。女性はその生活のスタイルを上から時間的制約を受けて、なかなか情報収集活動が充分にできないというデメリットで、力強くまた優しく語った。

相崎・刈羽原子力発電所

65回 星 璋

(東京電力(株)相崎・刈羽
原子力発電所副所長)

私は青山六十五回卒で、東京電力に勤務しており、現在相崎刈羽原子力発電所で仕事をしております。原子力発電所は地元の相崎市や刈羽村だけでなく、広く新潟県内の多くの方々のご理解、ご支援が必要であり、今回同窓会会報で発電所の近況をお知らせする機会を作って頂き、感謝しております。

柏崎刈羽原子力発電所は、現在百十萬KW三台、三百三十萬KWの運転を行うとともに、三・四・六・七号機四台約四百九十萬KWの建設を進めております。二、五号は米国GE社の設計に改良標準化を加えた最新の型で、更に六・七号機は百三十五・六萬KWの世界の軽水炉技術を大成した設計を採用しています。

平成九年に七号機が完成しますと総出力八百三十一・二萬KWの世界最新鋭かつ最大級の発電所になります。電気は主として首都圏の西部地区に送っていますが、わが国人口

の約三分の一を占める首都圏の電力供給のかなめとして、東京電力だけでなく日本経済の重要なエネルギー生産基地となっております。発電所では、東京電力の社員が約八百名、建設工事や保守・運営に携わる協力企業の方が約八千名に達しています。この内、新潟県関係者が東電職員で四十七%、協力企業では六十六%と、発電所の仕事の過半を地元新潟出身の方が支えています。

へ、TEL〇二五七―四五―三三二です) 発電所では、事務系の総務・労務・経理・資材・広報等ももとより、技術系では、電気機械、土木、建築、物理、化学、情報処理など多方面の技術者が仕事をしています。青山ご出身の若々しい才能の持ち主も是非東電に入社され、世界最新鋭の原子力発電所の運営に力を発揮して頂きたいと思えます。今回ブラジルで開催された

泌尿器科学会青山同窓会 初会合印象記

60回 広瀬欽次郎

地球サミットでみるように、環境問題に関する世界的な関心の高まりの中で、今後二十一世紀に向けて、電力エネルギーの中で原子力発電が先進国を中心に、益々重要な役割を果たすことが期待されます。東京電力も発電所の安全運転に一生懸命努力するとともに、ご誘致を頂いた地元、地域社会との共存、共栄の実を上げ、世界の原子力発電所のモデルになるよう職員一同今後とも努力していく所存です。

(六十回) 広瀬欽次郎(六十回) 河辺香月(六十四回) 在籍) 安藤徹(七十七回) 梶原隆弘(九十回) 黒川、坂田、武田正之(八十一回) の三氏は、急用にて欠席。 先ず本会の正式名称は、社会法人日本泌尿器科学会新潟県立新潟高等学校同窓会とするが、このような長い名では宴会場に書けない、又旧制新潟高校のモンボレが迷いこの可能性もありとの事で、泌尿器科学会青山同窓会の略称を常用することで決定した。 次いで本会会員資格について論じられたが、同日の午後体育講演を行った島田馨(六十回 東大医科研内科)の提案を伝えた所、県校卒業生若しくは在籍者で日本泌尿器科学会の会員、あるいは泌尿器科学の進歩に寄与した者をその会員にすることが参加者全員の賛同を得て決定された。 また会の名称より都職青山病院の連中が迷入した場合にそれを暖かく迎えようとの決議もなされた。

社会法人日本泌尿器科学会も会員数六千名近くを擁する大きな学会になった。その中の僅かな県校(旧新中)卒業生を一堂に会して同窓会を開いてはとの提案が、阿部礼男(四十六回) 黒川一男(四十七回) 佐藤昭太郎(五十三回) 小川秋実(六十回) 広瀬欽次郎(六十回) 坂田安之輔(六十一回) の諸氏より予てよりあった。

母校の創立百周年と日本泌尿器科学会総会が第八十回を迎えたのを機に、一九九二年四月十八日神宮外苑の陣屋で初会合がもたれた。 学会最終日に会を設定した。名簿の不備より当初十六名に案内した所十一名の参加が予定されたが、当夜も研究会などがあり下記の八名の参加に止まった。 参加者：阿部礼男(四十六回) 佐藤昭太郎(五十二回) 広川勲(五十二回) 小川秋実

向後、より多くの母校卒業生が泌尿器科医の道を選び、泌尿器科学の進展に寄与される事を祈り本稿をおえる。(文中敬称肩書略) P. S. 不完全ながら泌尿器科学会青山同窓会会員名簿が出来ました。 御用の方は下記に御連絡下さい。(青山同窓会事務局にもあります) 連絡先 〒一七八 東京都練馬区大泉 学園町四一―二八―五 広瀬欽次郎

円歌灯

76回 恩田雅和

学校の正面玄関前の門を入って前庭を右に行き、体育館前の石段を上がって、生徒通用門をくぐった。一九六五年前後から少なくとも数年は、そうして新潟高校生は、学校に通っていたはずだ。いや、ひょっとして今も、そうなのかもしれない。

生徒通用門の階段の前には、かなり広い自転車置場があり、そこ前庭の間に、屋根のついた渡り廊下が横断していたと記憶している。

そして、この渡り廊下と階段の間には小石が敷き詰められて、かなりの空間があったと思う。その小石群の中から、街灯が一つまたは二つ確かに建っていた。この街灯を横目にして、我々は登校し、また下校していた。それを私がはつきりと覚えているのは、街灯の柱の半ばあたりに、「寄贈三遊亭円歌」と記されたプレートが貼られていたからだ。

わかったことは、もちろん旧制新潟中学校を卒業されているので大先輩のことは違いないが、お生まれが古町七番丁と、今の二葉中学校区で生育されている、私とよく似た幼少環境で過ごされていた。

しかし、落語家になられたいきさつなどもっと詳しく知ろうと思ひ、ご遺族を捜したのだが見つからず、師の一番弟子で現在の三代目円歌師にお尋ねしても、それはわからずじまいだった。

先代円歌師と母校をつないでいるのは、あの街灯があの記憶の底を呼びもどし、一九九二年の二月、卒業以来初めて私は、高校を訪れた。

真っ先に、あると思っていた場所に行ったが、めざす街灯はなかった。現校長は、私は三年時に国語を教えていた瀧澤先生にこのことを話すと、恐縮することに、一緒にこの街灯を校内あちこちに捜してくださいました。残念ながら見つからなかったが、先生方の中に、次のように証言する人がいらした。間違いなくあの街灯は、私が言っていた

所にあつたのだが、十数年前、何かの工事の時に撤去され、行先は不明になった。街灯はその一つではなく、グラウンドの校舎側にもあって、当時先生方は、それらを円歌灯と呼んでいた。

今わかるのはここまでだが、あの街灯が円歌灯と名づけられて、師の名が母校で一時にせよ呼び続けられていたのは、

五月十七日(晴) フォレス トゴルフ西コース、第三十回 青山AG会ゴルフ大会を開催。参加三十四名、(関東勢) 青柳正男、池田昌之、内山隆之、金井正雄、黒川徹男、高野与一郎、中村義一、三浦愛三、皆川 重、山田信一の十名。(上越勢) 青木留蔵、湧井 豊の二名。(地元勢) 石田忠郎、伊藤重郎、内山一雄、遠藤 亮、加藤美明、小松正一、佐藤 恰、遠山晴夫、長谷川舜治、原 正雄、日根一朗、平原康男、藤巻圭介、星野陸夫、堀口忠五、丸田康雄、丸

62回同期青山AG会

ゴルフ大会報告

嬉しい発見だった。そこで、同窓諸氏にお願いしたいのだが、この円歌灯のその後の消息を、存知の方がいらっしゃったら、ご一報いただけないだろうか。もちろん、先代円歌師のご遺族のこと、その他師の落語の思い出話など、師にまつわることならどんなことでもご教示いただけるとなおありがたい。

催。年々会員は増加、今では七十名を超えている優勝者の名譽は永遠にカップに刻まれ、全成績は克明に保存されて、五年毎にハンデも改正される。懇親会のみ出席の人もあり、同期生の情報交換・親睦の中心的存在になっている。

入会の条件は只一つ、マナーを遵守し皆と楽しく遊べる人。

常任幹事 平原康男

田有吉、村木 修、山川広之、山根 務、渡辺哲也、渡辺富二雄、何ら劣らぬ腕自慢の面々。成績は、優勝 丸田康雄、準優勝 村木 修、B B 高野与一郎であった。

終了後、新潟市内の高級フランス料理店で表彰式・懇親会、ゴルフは欠席の斎藤文志郎もあらわれ、ゴルフ談義に花を咲かせ旧交を温めた。

青山AG会とは、六十二回同期のゴルフ愛好会の名称で、A組からG組までの意。

十五年前、十二名の呑み仲間から始まり、春秋年二回開



『青山夢像館』

出版情報

60回 佐々木城

昭和二十一年に旧制中学最後の生徒として入学し、学制改革のおかげで、戦後の6年間をまるまる在籍して『青山』をふるまっていた悪童たちがおりました。

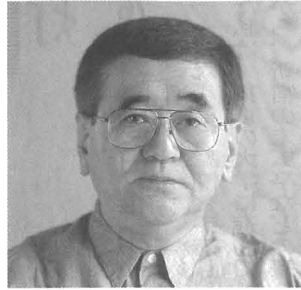
彼らこそ青山60回生。ウソウムソウと数字の60を掛け言葉にMUZO会と名乗る面々です。

この60回生が母校創立百周年の今秋、『青山夢像館』という記念誌を独自に刊行することになりました。史上例を見ない戦後の不思議な6年間を、学窓とともに過ごし、卒業後も波乱の歲月をおくったせいか、原稿は尻上がりになって現在一三〇編、そのなかには当時の先生からの寄稿18点も含まれています。そしてこれは、木造校舎焼失以前の最後の記録にもなっています。仮りに公式史料の「青山百年史」を表番組とするならば、さしずめこの『夢像館』は青

集記事や、戦後初の関西旅行となった修学旅行の見積書など、貴重な資料や写真も満載しています。また巻末には、現在の60回生の名簿のほか、在学中にどの組に所属していたかが一目でわかる、6年間のクラス編成名簿が添えられています。

『青山夢像館』はA5版約三〇〇頁。今秋発刊されます。乞御期待。(連絡先)

新潟市東中通一―二四
萬國徽章工業(株)内
「青山60記念誌編集部」



本校56回卒の小松重男氏

小松重男氏(56回)の戯曲

今秋新潟で公演

意欲作「海の鳴りどよめく」とく(2幕8場)が今秋9月22日(火)に新潟県民会館大ホールにおいて東京芸術座により公演されます。(開演 昼2時、夜6時30分)
「海の鳴りどよめく」とくは、大正・昭和期の生物学者であり社会運動家でもある山

本宣治を主人公にして進めていく感動的ドラマです。小松氏は、この新潟公演を成功させるべく新潟市内のマンションに陣をとり、東京の自宅を離れながらも張り切っています。また小松夫人は、東京芸術座のベテラン女優で、相生千恵子の芸名で大活躍されており、新潟公演でも皆様に舞台上からお目にかかることになっています。

去る四月十八日、青山三八会を会員であり、事務所を置く方代橋西詰の田中ホテルで催した。常連の等々力英男、安達達吾両君が病氣入院中のための不参は残念であったが、下記の十六名が顔を合わせた。そろそろみんな八十の高齢のため今回は午後一時から始まったが、一年ぶりの再会にも拘らず皆々年に似合わぬ若々し

さで喜び会ったことである。開会の挨拶は渡辺義平常任幹事。「去年逝去された佐野純君への追悼の言葉。母校百周年寄附は四〇万円割当のところ、わが三十八回は七十二万円という近隣卒業年度では抜群の高額となったことへの協力に対する感謝」の言葉があり、続いて後藤林八幹事司会の下で各自の近況報告を終

85回目の

青山三八会例会

盛会裡に開催

新潟市中大畑町5-8

大畑マンション102号
電話025-223-6469



(幹事 近藤圓記)

えて宴に入った。毎度の事ながらホテル創業者の田中松一君がいるだけに、部屋は第一等の眺望、料理も最高、宴たけなわの頃、渡辺君用意の色紙に病床にある安達君へ贈る寄せ書きをする。かくて三時半、次回を約して散会した。出席者は写真(前列左から)国山広雄、田中松一、関秀雄、関屋俊彦、橋本太助、山口五郎久長、清野準一、笹川仁一郎(中列) 田村勇作、早川拓生(後列) 近藤圓、杉垣二男、後藤林八、藤田義一郎、小林三郎、渡辺義平

画人笠原輒と その父漁村(二十一)

60回 小林智明

父の上京

明治四十二年の春、輒は東京美術学校を卒業して画家としての人生を歩み始めることになった。その前後の彼の住居は大分回も変わったようであるが、この年の秋には本郷菊坂町の常盤館という処に下宿していた。小石川原町には兄の輒の住みがあり、時々そこへ出入りしてはまた他へ移り住んでいたようである。その原町の兄が四十二年の暮に結婚することとなり、千葉県銚子町出身の明石ひろという女性を嫁さんに迎い、新婚生活を送るようになった。

美術学校卒業後の輒の制作意欲は仲々盛んであったよう、秋の母校新潟中学校の第六回立雲会にも「西洋柳」という絵を、後輩富田温一郎の「籠」と一緒に出品している。

翌明治四十三年は、四月にハレー彗星が出現して何となく世間が騒がしく、大逆事件で幸徳秋水が捕えられた年である。その頃彼は駒場の農科大学に職を得て、その農園の草花を写生して標本を作る仕事に従事するようになった。これが後年「輒さんは同じ植物を朝午晩に描き分ける」などと知友に言われた基礎になったものと思われる。此処で何年も植物を描き暮した彼には、そんなことはさして難事ではなかったようだ。

この年八月、学生時代の夏休みと同じようにまた帰省した。途中高田連隊にいる親友、中学同級の宮川惣介中尉を訪ね、彼の下宿に起居して直江津の浜で泳いだり、五智あたりまで出かけて行って大いに飲み、青春を謳歌し、泥酔した。新潟の家に帰った輒は中学時代の友人を訪ねたり、新津の祭見物のついでに曾遊の金津の白玉の滝まで足をのびし、その俗化ぶりを嘆いたりしている。

その年の学校町二番町の父の家では、輒、輒の二

人の兄弟が東京に出たので、父の漁村四十六才と、母キエ四十才、祖母キク七十一才の三人が暮らしていた。キエは輒の二才の時に生母キエが亡くなったので、輒が三才の時に父漁村の後妻となった人であるが、幼い二人の兄弟をわが子同然に育てた優しい人柄であった。漁村とキエの間には子供は無かった。また祖母と呼ばれていたキエは、父漁村の母ではなく、早く亡くなった漁村の長兄碓浦(潜)の未亡人で、明治十六年に兄の碓浦が亡くなった後に渡辺家を嗣いだ漁村には、その翌十七年に母が亡く



笠原 輒
海の悲しみ (絵はがき)

なった後は母代りとして、輒ら兄弟にとってはおばあさんとして暮らして来た人であった。

その頃の新潟公友という新聞の「新中教師駈評」という記事に漁村が次のように紹介されている。

「氏は佐渡の人にして多年税務署長として令名あり、鬼渡辺と紳名せらる。蓋し状貌の魁偉なるが為め也、音吐鐘の如きが為め也、然れども氏は見たと嘗めたは大違ひにして、柔しくして、且つ情に脆き人也。氏の詩名は雑誌『太陽』に七葉山之歌出でて頗る県下に藉甚し、坂口五峰らと鷗鷺の盟を結び玉汁多かりしも、今は僅かに其新年作を新聞紙に見るのみ。

氏は漢文教師として、明治卅三年四月着任す、氏の教授振りは、純然たる古儒者風也、而して其熱心にして親切なるは他に比を求むべからず」と。

その漁村が、翌明治四十四年の夏に二人の息子を訪ねて上京して来た。大洪水で信越線は大いに遅れ四時間くらい待って漸く汽車が到着した。鼠色の暑そうな合服に、手に新式の旅行鞆を携えた父を迎えた輒は、「……車に乗って原町の兄の家へ着く。故郷の家の広い庭と座敷から比べると、此家は鼻もつかへる位に狭い、東京は嫌だなア」といふやうな表情が父の顔に漂った。それでも水道の水で顔を洗って、や、清々とした気になって座敷に戻った父は、新潟を発ってから長野に泊って、川中島の古戦場を見物した時は、洪水の中を××寺まで行くのに濁水が腹まで届きそうになったので、生命が惜しくて引き返したなど話した。川中島はこれ迄父が毎年夏になるとあこがれていた所だった。単に古戦場といふ許りではない。実は父の祖先は甲斐の武田氏の家来だったと系図に書いてある。其幾代か前の祖先には、信玄に従って彼処に奮戦し、或は功成り或は河辺の露と消えた一族もあったろう。そんな追憶が父の詩情を惹き寄せたのである。……やがて嫂の手料理が並べられて、兄と三人鼎坐し乍ら酒を飲み始めた。

其時の父の詩に

郵書常喜報平安 郵書常に喜ぶ 平安を報ずるを
一別各天相見難 一たび別れば 各々の天 相見ると難し
今日都門為鼎坐 今日都門に鼎坐を為し
筵無兼味共杯盡 筵に兼味無くも 共に杯を盡くす

とあった結句のように久振りに三人が愉快に飲んだ。其時の父は未だなかなかの豪酒であった。酒だけでなく俺等兄弟は到底父に及ばなかった。……

という文章を「父の面影」と題して、漁村の没後、遊方会雑誌に発表している。長男輒の新婚家庭が気になって上京して来た漁村であった。

漁村は東京から更に足を延ばして上方見物をして十日ばかりで戻ると、祖先の地である甲州の訪問を

見合せて勿々に新潟へ帰ってしまった。そして間もなく九月の始めに今度は輒が帰省した。

その頃、輒は秘かに好意を持っていた或る若い女性に失恋したらしい。中学からの親友に書き送った絵ハガキに、その彼女の姿が描かれて、「おの中の鳶色のリボンの女よ、忘れもしない当年の恋人だ、チョッ忌々しい、呪へ呪へ悪魔よ……改良座の楼上にて」と記し、更にその四五日前のハガキには「海よ海よ、故郷の海よ、俺の来やうが遅かったばかりに、少女は人に嫁ぎ、冷たい風にもう秋が来て居る……(海の悲しみ)という独白と、海辺に両脚を投げ出して仰向に寝転んでいる己の姿を描いている。ほのかな淡い恋であったのか、それとも胸の火が燃えさかるような恋であったのか、知るすべもない。

帰京して間もなく輒は、谷中三崎南町の本通寺内の下宿に引越し、「……今度漸く左記の所に寓居して自炊生活を営む。生慾の飢渴に追はれて稍々奮闘精神の昂進するを得たり、屠龍が面目より一層刮目に値せん、呵々」などと同じ親友渡辺順(石山村中野山)に書き送っている。ところがその僅か一週間ほど後にそこを引き拂い、農場内の空小屋に移り住むことになった。そこは「……東京府下、上目黒村字駒場、農科大学農場、この農場をお忘れなく願上候。大学構内の奥の奥の狐狸菓窟に接したる所なれば人余り小生の存在を知らず……」という処で、経済的、時間的な便利さが引越した主なる理由と思われる。更に翌明治四十五年一月に「……去年の暮に農場内の空小屋へ引越し春の末まで此所に居る積りです。長々御消息をきかなかったので八朔君のところへでもき、合わせに行つて見やうかと思つて居ました。同君は正月から風邪で箸居のよし、馬糞中尉は元旦に小さい野郎を拾ったそうだし、兄貴は今は婿と二人で下宿生活をして居る。僕は此所へ来てから非常に勉強して居ます。御健在を祝す。」と渡辺順に、兄と会津八一、山内保次の三人の順の同級生の近況を書き送っている。

(つづく)

百周年記念アンケート特集 幹事さんに聞きました

日ごろ縁の下の力もちとして、しっかりと同窓会を支えてくれている幹事さん達。今日の同窓会の隆盛も、長い間の幹事さんの努力のお陰と、感謝しているひとはたくさんいます。母校創立百周年を迎えるにあたって、同窓会の為に奔走する幹事さんにスポットライトを当てました。

その幹事さんへのアンケートです。
質問事項は以下の通りです。

- (1) 思い出の先生
- (2) 在学中の思い出
- (3) 幹事の苦勞
- (4) これからの同窓会(提言)
- (5) 会報について(感想、希望など)
- (6) 後輩に望む(簡単に記入ください)

六月の幹事会の最中、忙し
い中お願ひして書いていた
きました。ありがとうございます。
ました。

39回 福山 健

— S 7 年卒業 —

(1) 小島スケート、シヤモ、

(1) 齋藤栄治(陸軍大尉、退
役) 鈴木 要(地理)の二先

41回 本間敏雄

— S 9 年卒業 —

(1) 齋藤栄治(陸軍大尉、退
役) 鈴木 要(地理)の二先

40回 早川悦司

— S 8 年卒業 —

(1) 齋藤栄治(軍人)、中川
忠作、小田寿造
(2) 四十周年記念行事(七月
一日~五日?)

(3) 同期への連絡(私共のク
ラスは奇数月に会合している
ので楽な方だと思いが)
(4) 経費の事もあり、一概に
言えないが、もう一回位発行
したら。

(6) 進学第一の時代だが、人
生は時代の流れと本人の気持
の、そしてお行いの対処が大
切。そして何よりも健康と安
全が大切。

生。概嘆演説、剣道部数回優
勝
(2) 数々の連絡(その消息に
ついて)
(3) 若手に魅力あるものにな
るように配慮する。
(4) 常連でなく、新しい同窓
生に執筆を頼む。写真を入れ
る。活躍中の人物、地味であ
るが、素晴らしい人物を掘出
す。マンネリにならないよう
に。
(5) 若手の新感覚で企画して
もらうよう考慮するように望
む。小生青山を愛している。
(6) (同様に)云えないが、旧制
新潟高校の卒業生は愛着と熱
意をもっている。第三十回で、
学制改革でなくなったので老
令者が多いが)

42回 高山雄次郎

— S 10 年卒業 —

(1) 残念乍ら苗字よりも仇名
しか記憶にありませんが最も
生々しいのが教練の齋藤(軍
鶏)、体操の巨漢、クス饅、
生蕃、国文学の教頭河馬、英
語のオットセイ、地理のタコ、
歴史のガニ、生物のゴリラ、
美術のモデル等々、皆夫々に
風格があり尊敬する先生でし

た。
(2) 小さい乍ら死物狂いで柔
道をやり先生は旗野(樽)
古館(象)、県大会、全国大
会に迄出場して県を代表し青
春をぶつけた事。
(3) 同期の皆の爲にと細心の
注意を払っても、うまく行っ
て当り前、手落ちがあればこ
づかれること。
(4) 私は会合は会長挨拶に続
き決算報告やら色々との連
営に関する重要事項の討議、
取決め算を行い、報告等公式
の行事であると考へます。常
にステージには校旗と日章旗
を飾る事。之は単なる飲み会
ではありません。
(5) 今迄通りで良いと思いま
す。
(6) 私は学んだ事が今本当に
生きて居ります。学問は勿論
ですが特に精神面がより強く
現在を支えています。学問に
片寄らず不倒不屈の精神力を
養って下さい。更に我が身を
抓って他人の痛さを知る心も
養えれば最高です。

44回 佐々木勸麓

— S 12 年卒業 —

(1) 阿部利三郎先生(青豚)、

齊藤栄治先生(シヤモ)、加
納頼良先生(ニセ聖人)
(2) 現在の進学競争はなく、
のびのび学生生活をおくるこ
とが出来喜んでおります。在
学中は良く学ばず良く遊びま
した。
(3) 寄附金あつめ、前売券
(同窓会) 発売、昭和23年以
降、この仕事にたずさわって
おり、色々な事がありました。
良い思い出も沢山あります。
(4) 誰でも気軽に参加出来る
方法を研究してほしい。
(5) 親しみ易い会報作成お願
いします。
(6) 学生とは直接に接触しま
せんので分かりませんが校内
がもう少し綺麗に整頓されて
いることを望みます。

46回 横山隆二

— S 14 年卒業 —

(1) 失礼ながら、ニックネー
ムの方が思い出につながるの
で。シヤモ、赤チヨン、一銭
ガンジー
(2) ガイタン演説、剣道部の
事。
(3) 苦勞はないが、同期の諸
君が喜んでくれた時に嬉しさ
を感じる。

(4) ややマンネリ化の傾向を
感ずる。
(5) 同じ人の連続掲載に大き
なスペースをとるのはやめて、
もっとその時のトピックス、
同窓会活動等をのせてほしい。
(6) 卒業後、同窓会(学校)

52回 押木博太郎

— S 20 年卒業 —

(1) 歌川先生(担任、勤労働
員の監督等一番接触が多い)
岩野先生、蛭川先生(担任、
神統の信奉者として印象が強
烈) 小日向先生、小坂先生
(スキーによく行った齋藤シ
ヤモ先生、木村先生(特別の
関係)、高橋先生、五十嵐先
生(剣道部)

(2) 勤労働員(中央埠頭、名
古屋の愛知航空機。)
(3) 同期生に奉仕。
(4) 剣道部の会合でもうまく
ゆきませんが、各期の交流が
あれば幸いです。

(6) 同窓会総会に、年輩者が
多いといわず、若い期も大い
に参加して下さい。

53 回 榊 瀧 昭 夫

— S 20 年 卒 業 —

(1) 斎藤栄治(あだ名はシヤ

毛)

(2) 勤労働員於名古屋(シラ

ミ、空襲、地震)

(3) 住所不明者の探索

(4) 百周年でひとくぎり。新

しい世紀へ、初心に帰って。

56 回 中 由 正 男

— S 23 年 卒 業 —

(1) 池 政栄先生。健在で、

地元で活躍されているが、池

節とも云われる話術で、生徒

を魅了。

(2) 学徒動員で石井精密に半

年間(終戦迄)工場で働いた。

魚雷の部品の安定器を造って

いたが。

(3) 同期の情報を出来るだけ

集めて、年一回、東京・新潟

を含めて合同の同期会を行っ

ているが、年令的にリタイヤ

の時期で出席率が下降。

59 回 伊 佐 修

— S 26 年 卒 業 —

(1) 池 政栄先生

(2) 戦時中大事なグラウンドを

61 回 江 口 良 助

— S 28 年 卒 業 —

(1) 渡辺秀英(団長)

(2) (昭和27年度)

運動会で総合優勝したこ

と。(現在の青陵祭の前身で

初めてクラスを縦割にした時

である)

(3) 別になし

(4) 若手の同窓生がもっとも

と積極的に参加出来る同窓会

づくりをめざしたい。

(5) 毎回ご苦労さまです。

(6) (4)と同じ

63 回 滝 沢 正 元

— S 30 年 卒 業 —

(1) 岡田正美先生

(2) 校舎焼失、穴のあいたベ

ニヤの間仕切壁

大したことなし。

(4) 市内中心部に気楽に集ま

れる倶楽部があるとよい。建

設費は寄附でまかなう。

(5) 良くできていると思う。

(6) 校舎を大切にしていし、い

63 回 赤 羽 良 樹

— S 30 年 卒 業 —

(1) 1 年時石本謙三先生、2

年時横山貞雄先生、3 年時菅

原欽一先生、世界史の池政栄

先生、漢文の渡辺団長先生と

……

(2) 山崎忠昭君、山田元也君

等と「青山」や新聞に話や小

説(?)を載せて、いっぱし

の文学少年であった。

(4) 次第に女性会員が増えて

いる……女性会員の声を尊重

し、女性幹事にもご登壇願

い、女性幹事に女性の多数参加を!

総会行事に女性の多数参加を!

……

(1) 小田一彦先生

(2) 昭和29年の火災後の二部

授業と青陵祭のバカ騒ぎ。そ

れから三年時校区一周駅伝で

優勝したこと。

(3) 別になし

(4) 新校舎建築のための援助

活動。

(5) よくできていると思う。

(6) 少年老い易々学成り難し。

68 回 北 村 泰 作

— S 35 年 卒 業 —

(1) 阿部(雲助)先生、渡辺

(団長)先生、松田(きのこ)

先生、大橋(テースケ)先生

(2) 青陵祭の前、学校に泊ま

り込みでシャツを染めたり、

看板を描いたりしたこと。

(3) 卒業30周年記念に「新潟

海岸にグミ原を復活させよう」

のキャンペーンを行い、68回

生一同で新潟日報に意見広告

掲載、新潟市青山海浜公園へ

グミ苗木の寄付をしました。

何と云っても困ったのは、住

所、連絡先が不明な人が相当

多いです。(どこの幹事も同

じ悩みだと思えますが……)

(4) 各期単位があるいは数期

単位で、特に環境問題に対す

るキャンペーンや活動ができ

れば意義が有るのではないか

と思います。

(6) 青山同窓会には多くの分

野で活躍している先輩が沢山

います。何か有った時には、

遠慮せずに気軽に相談、活用

することを勧めします。

70 回 藤 誠

— S 37 年 卒 業 —

(1) 沢山、遠藤、宮地、高橋

(是)、志賀の各先生。

(2) 青陵祭及び駅伝、クラブ

(水泳部)

(3) 名簿作成迄のことと移動

の適時連絡。

(6) もう少し積極性をもって

欲しい。

70 回 笠 原 大 仙

— S 37 年 卒 業 —

(1) 沢山先生

(2) 青陵祭、駅伝

(3) 名簿調査

アンケートを讀んで

67 回 石 田 瑞 穂

いつ、どこで、だれに、任

命されたのかと記憶にな

いが私も同期の幹事である。

新潟在住なのだからと、半

分は義務感で連絡係を努めて

いる。そのうえ会報の編集委

員でもある。企画して、寄稿

を依頼、取材、編集、時には

埋め記事をも書いて校正まで

今、幹事諸兄の文を讀んで

みると、よき師、良き友、に

巡り会い、良い思い出が残っ

た。その青山に対する愛着が

また誇りとなって、無償の、

いや、持ち出しの奉仕の励み

になっていてることを痛感した。

これが同窓会なんだなあ。先

輩や同期の労いの言葉に明日

の活力を見いだし頑張ってい

る幹事さん。お互い元気でこ

れからも頑張りましょう。

後輩の活躍

高野明君(柔道)ら インターハイへ出場

◎県総合体育大会

- 陸上部(男子) 走巾跳 4 位 吉田誠、三段跳 4 位 吉田誠、400Mハードル 4 位 吉津亮 (女子) 走高跳 2 位 高橋由紀子
- 水泳部(男子) 200M自由形 2 位 勇崎義紀、100Mバタフライ 3 位 勇崎義紀 (女子) 100M背泳 1 位 川原のぞみ、200M背泳 1 位 川原のぞみ、100Mバタフライ 1 位 小懸文、200Mバタフライ 1 位 小懸文 (水泳は 7 月下旬に行われる北信越大会で、インターハイ出場選手が決まる。)
- 男子バスケット部 3 位
- 卓球部 女子団体 3 位、女子ダブルス 2 位(葦科玲子、綾子組) インターハイ出場
- 柔道部 (男子) 軽量級 1 位 高野明 インターハイ出場、同級 2 位 山口知愛 (女子) 無差別級 3 位 小野博子、52kg 級 3 位 小関千佳子
- 登山部 (男子) 優秀校
- 庭球部 男子団体 2 位
- フェンシング部 (男子) 団体 2 位、フルレ 2 位
- 本間真 インターハイ出場、同 3 位 間島睦貴、エペ 2 位 五十嵐啓人、同 3 位 本間真、サーブル 2 位 間島睦貴 (女子) 団体 1 位 (鈴木、福原、渡部、鶴木、水島) インターハイ出場
- ボート部 舵つき A 2 位、同 B 3 位、ダブルス カル 1 位 (長谷川、和賀組) インターハイ出場、シングル スカル 1 位 平登亮 インターハイ出場
- 空手部 (女子) 団体型 3 位

◎北信越大会

- (男子) 三段跳 4 位 吉

- 田誠 インターハイ出場
 - 卓球部 女子ダブルス 2 位(葦科玲子、綾子組)
 - フェンシング部 男子フルレ 3 位 本間真
- ◎全国高校囲碁大会県予選
- 囲碁部 男子団体 1 位 (中野、杉浦、西脇) 一全
 - 国大会出場、個人 1 位 中野祥孝 一全大会出場

職員の変動(平成四年四月)

- | | |
|-------------------|---|
| 全日退職・転出転出先 | 教諭 斎藤繁夫 新発田南高 |
| 教頭 徳橋時男 村松高校長 | 教諭 水上博雄 新潟北高 |
| 教諭 近藤 勲 退職 | 教諭 稲田純子 新採用 |
| 山崎 誠 新潟西高 | 樽 洋一 新津高 |
| 坂井政行 津南高教頭 | 非常勤講師 児玉卯栄之 |
| 沢田俊一 新津高 | 本間久恵 |
| 渡辺浩行 国際情報高 | 佐藤洋子 |
| 非常勤講師 高野夕子 西川中 | 長沢恵依子 |
| 通信制 教諭 椎谷 劉 退職 | 通信制 教諭 栗原恵子 水原高 |
| 長野桂嗣 退職 | 小林智之 新発田高 |
| 五反田皓 新発田南高 | 稲岡 浩 栃尾高 |
| 高野 晃 新潟中央高 | 狩野芳明 村上高 |
| 片桐ひとみ 新潟西高 | 常勤講師 庄司朗子 |
| 青木 豊 新潟工業高 | 事務 事務 中谷藤太郎 新潟江南 |
| 高橋昭三 市立明鏡高 | 事務 事務 高事務長 藤隆顕彰碑建立に。同期の人たちの強力なバックアップ。筑波氏の名文、ご一読を。 |
| 主任 山添 瑤 退職 | 司書 和田寛子 新採用 |
| 阿部重作 津川土木事務所用地課係長 | 庶務係長 小柳ノブ 新潟農業改 |
| 全日制 転入 転入前 | 良普及所庶務係長 |
| 教頭 樋浦卓嘉 三条高教頭 | |

編集後記

就任のクリーンヒット。女性編集子がインタビュ。後続の女性の為に、新潟県の為に活躍を。

◇いよいよ母校の百歳を祝うセレモニーも間近か。母校には、いつまでも色褪せず輝く青山でいてほしい。雲乱れ、山どよめいても、雄々しい野辺のすめらぎでいてほしい。

◇上村光司副会長が新潟日報の社長に就任。公務多忙の中、学校へ足を運んでくださる。白内障の手術も快癒、益々事務局へのアドバイスも冴えわたる。

◇新潟財界、青山同窓会を支えて来られた巨星等々力英男副会長が逝去された。百周年行事を目前に控えての不幸、残念でなりません。

◇新大学長に武藤輝一氏。魅力ある新潟大学づくりの決意を新たに。若者のためにも、ご尽力のほどを。

◇故佐藤隆代議士の「ご人徳を慕う多勢の人々の心、いま佐藤隆顕彰碑建立に。同期の人たちの強力なバックアップ。筑波氏の名文、ご一読を。

◇女性が益々社会に進出する時代。本校卒業の玉木恵子氏、女性で初めての県庁本庁課長

◇大きな青山同窓会を支えるは、各期幹事諸氏。こんなに出席率の高い幹事会はよそでお目にかかれるだろうか。雨にも風にも負けず、足繁くお出でくださる。幹事さんたちにスポットをあてたアンケート特集。幹事皆さんの同窓会への熱き心がうかがい知れる。多謝。(析倉 記)

